

学生、教職員のみなさんへ

2021. 1. 12 学長 谷岡郁子

明けましておめでとうございます。

今年がみなさんにとって、良い年になりますように。

残念ながら、コロナ問題に関しては、感染がさらに拡大し、東京を中心とする関東地方には緊急事態宣言が出ました。愛知県等東海地域も時間の問題だと思われます。

このことを視野において、既に今週の授業はリモートに切り替えましたが、学内での検討の結果、リモート中心体制を延長します。期間は、とりあえず緊急事態宣言の終了予定日までとします。個々の授業に対する詳しい予定に関しては、現在検討中ですので、今後の大学や教員からの連絡を見落とさないようにしてください。

リモート中心の体制になっても大学は、開き続けます。

卒業要件や資格取得のためにどうしてもやらなければならない、リモートにできない実習等は実施される可能性があります。この決定についても検討を急ぐようお願いしています。対面で実施となった場合でも、通学に不安な学生は申し出てください。対応策を考えます。もちろん、実習、実験は大学の現場で行うのがベストではありますが、この状況下で危険な通学を強制することはありません。

一方、下宿生等の自宅は手狭なことも多く引きこもって生活することでストレスが高くなり、精神的なダメージも考えられます。これらの学生がより広いところで快適に学習できるように、部分的にキャンパスを開放します。自宅通学生であっても、大学に来たほうが勉強が捗るなら来てください。学内の Wi-Fi やパソコンは使えるよう準備します。

また、健康のために運動できるようにトレーニング室も使えるようにする予定ですが、使用許可の条件として PCR 検査を受けて陰性であることが必要になります。

部活動については、それぞれの感染予防対策を講じた上で、この時期の活動について改めて申請してください。集合練習の必要性和予防策の妥当性を判断して許可する方針です。また、許可がある部活動に関しても不安を感じるメンバーに対してどのような強制も批判もあってはならないということが条件です。学外者の参加は禁止です。

以前から何度も説明してきたとおり、大学の方針は最大限の予防措置を取りながらもできるだけ学生らしい生活が続けられるようにすること、そして互いに守り合い支え合う

コミュニティとしての大学を維持していくことです。

気をつけていても感染することはありますから、これは罪ではありませんし、非難されるべきでもありません。検査は感染者をあぶり出すためにするのでも、陰性で安全なことを証明して安心させるために行うのでもありません。単に、気付かず感染している場合に備えて早く感染に気づき、できるだけ仲間の感染を防ぐと共に、症状が重くなることを防ぐことに意味があります。

リスクはゼロにはできませんが、お互いを守り合い支え合うための努力はできます。現状がわからないために危険を無視したり、その反対に不安感を募らせて他者に対して必要以上に批判的、攻撃的になるより検査で現実を把握して科学的で合理的かつ人間的な対応がとれる至学館でありたいと思います。これまでのところ、私のこの理想に対して皆さんの多大な協力があったことに感謝し、心から誇りに思っています。止まない雨はない、との言葉のとおり、きっと春が近づくとともに状況は良くなるはずです。

今しばらく、力を合わせて頑張りましょう。